

京の川の恵みを活かす協働活動について

1. 活動方針

- 京の川の恵みを活かす会は、学識経験者、農林漁業関係団体関係者により構成され、京の食文化を支えてきた天然アユなど多くの生き物たちの生息環境を保全し、自然の恵みとして活用できるようにすること等を目標として、調査・研究活動等を行う。
- 京都市都心部(三条～四条)における天然遡上のアユ釣りの復活や、鴨川をはじめとする京の川で育ったアユ、ハエ、ゴリ等の利用拡大を目指す。

2. 平成27年度の活動と成果

- 都心部への天然アユ遡上を目指し、都心部までの障壁である今井堰(伏見区深草)・三条・丸太町・荒神口落差工に簡易魚道を設置し、遡上状況を調査した。
[成果]
 - ・ 今井堰に設置した簡易魚道において、2,591尾の魚類の遡上を確認(計測日数58日)。平成26年度の452尾に比べて6倍ほどに増加した。
- 小学生13名を含む29名が参加し、ゴリ押し漁によるゴリ(カワヨシノボリ)の生息調査を実施した。1回あたり数十尾のゴリの採捕に成功し、鴨川に相当数のゴリが生息していることがわかった。
- 鴨川の龍門堰跡地において、アユの産卵場整備、産卵床調査などを実施した結果、鮎の産卵床を複数箇所発見した。
- 川の恵みの食味体験会など、鴨川の自然の恵みの啓発・普及活動を実施した。
- 京の川の恵みを活かす会のこれまでの活動成果の報告をするとともに、韓国において河川の環境保護活動等をおこなっている、韓国清州市のNPO団体「緑色清州協議会」と京の川の恵みを活かす会が協定を締結し、両団体の交流を促進することとなった。

3. 平成28年度の活動計画等

- 5月中旬から下旬にかけて、三条落差工、丸太町落差工、荒神口落差工に簡易魚道を設置(今井堰は土砂堆積により段差が解消されたため、今年度から魚道設置不要。遡上数がカウントできるように簡易な装置のみ設置)。8月中に簡易魚道を撤去。
[成果]
 - ・ 今井堰において、3,503尾の魚類の遡上を確認(計測日数63日)。
 - ・ 三条落差工、丸太町落差工、荒神口落差工にそれぞれ設置した簡易魚道においても、アユの遡上を確認された。出町柳の三角州付近で多くの遡上鮎が確認され、約70年振りに天然鮎が出町柳に到達した。
- 昨年同様、ゴリ押し大会や食味体験会等、多くの人々に鴨川の自然の恵みを体験していただける取組みを実施予定。

平成28年度鴨川簡易魚道設置要領

1 設置目的

平成23～27年5～7月、龍門堰（京都市伏見区下鳥羽）に設置した簡易魚道（管理上アユの遡上期のみ）での天然アユ遡上調査の結果、平成23年に推定19,700尾、平成24年に29,500尾、平成25年は2,300尾、平成26年は600～800尾、平成27年は9,900尾であることが明らかとなった。平成23、24年、平成27年は、三条落差工付近において、天然遡上アユを確認したが、遡上数が激減した平成25、26年は、三条や丸太町において天然アユの姿は確認できていない。

平成28年度は、平成27年度と同様に、鴨川に遡上してくる天然アユの生息域拡大（賀茂川と高野川の合流点まで）を図るため、桂川合流点から賀茂大橋までの区間において、アユが遡上しにくい3箇所の落差工（三条落差工、丸太町落差工、荒神口落差工）に簡易魚道を設置する。

※ 龍門堰については、堤体の撤去に伴い、平成27年度から設置不要

※ 今井堰については、段差の解消に伴い、平成28年度から設置不要

2 設置期間

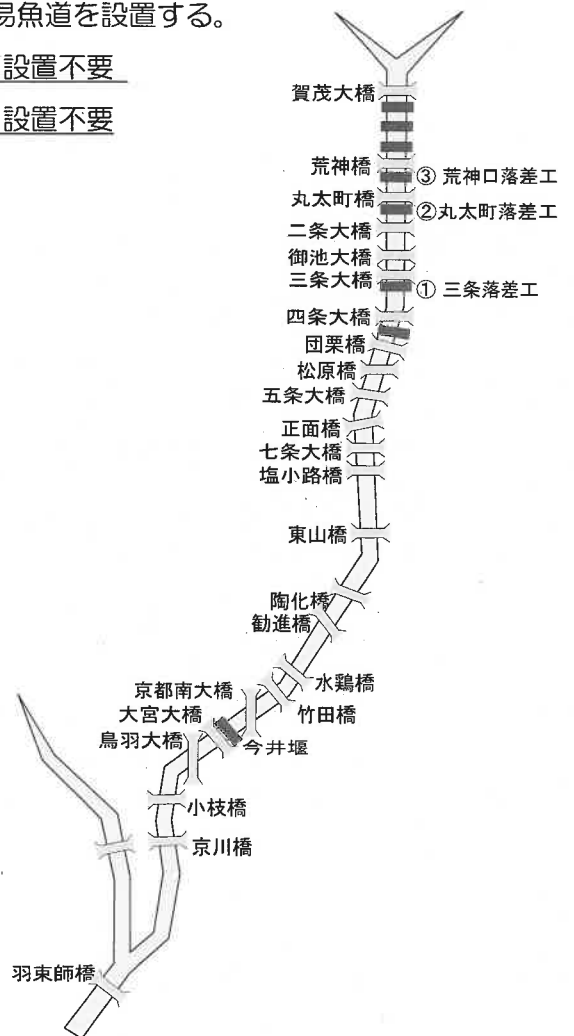
平成28年5月～8月下旬

3 設置場所と魚道タイプ

- ① 三条落差工（左岸） 土のう積み階段式魚道
- ② 丸太町落差工（左岸） 木組み階段式魚道
- ③ 荒神口落差工（右岸） 木組み斜路式魚道

4 簡易魚道の設計ポイントについて

- ① 「階段式（堰上げによりプールをつくるタイプ）」のプールは、広い方が望ましく、各プール間の段差は低い方が望ましい。→ 魚道サイズとのバランスが課題となる。
- ② 魚が、魚道を遡上するタイミングは、増水後やや河川流量が落ち着いた頃に多く（平水時よりもやや多い状態）、この時に、魚道内に魚が上りやすい流れがつくれているかが重要である。
- ③ 魚に、魚道の入口を見つけさせるためには、魚道から流れ出る「呼び水」の水量が多い方が望ましい。→ 「呼び水の水量」と「上りやすい水量」とのバランスが課題となる。
- ④ 魚道の入口は、堰堤の下流側に突出しないように設ける。
- ⑤ 魚道材料は、景観に馴染むよう木や竹などの自然素材を中心とし、人の手で運べる程度の重量とする。



① 三条落差工（左岸）～土のう積み階段式魚道～



② 丸太町落差工（左岸）～木組み階段式魚道～



③ 荒神口落差工（右岸）～木組み斜路式魚道～



撮影：京都市 中筋祐司氏

● 今井堰（左岸）～遡上調査用シート敷設～



● ゴリ押し漁の様子（平成27年10月8日）

